

タイの貿易統計

統計部

まえがき

タイの貿易統計は、一般にホンコン、インド、マラヤなどのそれとともに、アジア諸国の中ではよく整ったものの一つであると考えられている。よく整っている貿易統計という場合、その内容が明確でかつ利用に便利であるということを意味する。

内容が明確であるということは、統計作成のための定義が明示されていて、それにそって統計が編さんされているということである。この点については、タイの貿易統計は内容が明確であるということができる。

また、利用に便利であるということは、統計書のていさいが利用に便利であるということはもちろん、さらにその内容も国際比較にたえうるとか、時系列比較に便利であるとかいうことを意味する。国際比較の点については、貿易統計の一般原則に照らしてみても検討がなされなければならない。タイの場合、統計のカバレッジと商品分類に若干の問題はあるが、他はおおむね一般原則に近いものとなっている。

時系列比較すなわち統計の継続性という点ではタイの貿易統計では1930年代まで、ほぼ現在と同じ形のをさかのぼって得ることができ、他に例をみないほどよく整っているということができよう。

以上のようによく整備されているタイの貿易統計にも、細部にはやはり利用にあたっては留意すべき問題点を含んでいる。以下、各項ごとに説明を加えながら、それらの問題点を指摘する。

I 統計機構と貿易統計書

1. 統計機構

タイの統計機構は、全体としてはかなり集中的な性格をもっている。経済開発庁 (National Economic Development Board) に属す中央統計局 (Central Statistical Office) が文字どおり統計業務の中心となっていて、国民所得統計、人口動態統計、貿易統計など若干のものを除いたすべての統計はここから公表されている。

貿易統計の作成される過程は、わが国の場合とよく似ている。編集・発行の担当部局は、大蔵省税関部統計課 (Statistics Division, Dept. of Customs, Ministry of Finance) で、統計作成の原資料は各国の場合と同じように各税関から回付された輸出入申告書 (Import and Export Entry) である。これはいうまでもなく通関統計についてのことであって為替統計や貿易指数は、別途に中央銀行であるタイ銀行 (Dept. of Economic Research, Bank of Thailand) から発表されている。

2. 貿易統計書の種類

タイの貿易統計書で第1次統計といえるものには、大蔵省税関部発表のつぎの二つがある。

(a) *Annual Statement of Foreign Trade of Thailand* (1954年までは *Annual Statement of the Foreign Trade and Navigation of Thailand*);

(b) *Monthly Report of the Imports and Exports of Thailand* (Port of Bangkok Only)

(b)はバンコク港での通関のものみの統計であって、タイ国全体のものではない。全タイの統計の月報は現在のところ一般には公表されておらず

(a)の年報によって年間で全タイのものをみるより以外に方法はない。

タイの場合、バンコク港を通じての貿易が、全貿易量の大半を占めているので、ある種の品目を除いてこの月報で月間についての大体の趨勢を把握することはできる。この(a)、(b)については、統計表の構成の説明と両書と比較検討を次項で行なう。

つぎに、同じく通関統計の記載のあるものとして、前記の中央統計局から、

(c) *Statistical Yearbook, Thailand*

(d) *Bulletin of Statistics* (Quarterly)

が公表されている。

この両書中の貿易統計の部分は、ともに税関部の統計の転記であるので、これらは2次資料である。

(c)の貿易統計は、全タイ(National)とバンコク港、およびその他主要港別の二本建てになっており、全部で20種の統計表が掲載されている。しかしながら、品目別は細分されておらず、SITC1桁(Section)別のものと主要商品(米、チーク材、ゴム、錫など)別のものしかのっていない。この年報にはその年までの過去10年間の時系列が併記されているので便利な面もある。

(d)は(c)とほぼ同様の統計を四半期別にしたものと考えてよいが、商品別はSITC2桁(Division)別まで掲載されている。

為替統計については、わずかに中央銀行の作成する外貨準備高(Gold and Foreign Exchange Reserve)が下記の2書に発表されるのみで、現在のところ貿易統計は通関統計が中心になっているといつてよい。

(e) *Bank of Thailand Bulletin* (Quarterly)

(f) *Bank of Thailand Monthly Report*

(e)は1959年10月から刊行された四季報で、その貿易統計表の部分には、輸出入額、貿易収支のほか、米、ゴム、錫、チーク材などの主要商品の輸出額、さらに輸出入の金額指数、単価指数、数

量指数および交易条件指数などの貿易指数が記載されている。

(f)には(e)よりやや詳しい税関部の通関統計表(1~7表)のほかに月別の貿易指数および貿易収支がのっている。この(e)、(f)の貿易指数はタイ銀行で独自に作成しているものである。

II 貿易統計書の構成

前項にあげた(a)、(b)には商品別が7桁(旧SITCに2桁追加したコード)別まで掲載され、各商品別の下に相手国別をもつ商品別国別のもっとも詳しいデータをとることができるので、以下主にこの二つの統計書について詳しくみてみよう。

まず、(a)の構成は、まえがきおよび総括表、本表および付表の三つの部分からなっている。他の諸国のそれと比べて特徴的な点は、(1)まえがきの部分がよくまとまっていること、(2)直接通過貿易(主にラオスへのもの)が別掲されていること、(3)付表の部分に港、空港別の統計がよく整備されて加えられていることがあげられよう。

まえがきの部分には、いわゆる統計編さんの方法についての説明と同時に、国名のコード表、商品項目索引、数量単位コードが付いていて利用に便利である。

2番目の直接通過貿易の統計は、バンコク港を通過して内陸のラオスに輸入されるものの統計である。これはラオスとの関税協定によってすべてタイ国の貿易統計の外数として扱われることになっている。ちなみに1961年のラオスへの直接通過貿易は177,410,658パーツ(8,456,180ドル)であった。

3番目に、港別のものの統計が整っていることは以下に述べるように月報がバンコク港のみのものであることとも関連して当然のことであろう。

月報(b)は、さきにもふれたようにバンコク港のみの通関統計であるという点を除けば、その構成は年報とほとんど同様である。ただ総括表の部分がない点だけがちがっている。この月報にはその

月の貿易量とその月までの累計が併記されている。

タイでは、全タイが含まれる年報の発行が遅れるので、場合によってはこの月報でタイ国の貿易の一応のめやすをたてることがある。この場合ふつうバンコク港のもののみで輸入はほぼ90%、輸出はほぼ60%をカバーできるとされている(注1)。輸入はほとんどがバンコク港通過のものであるが輸出では南タイのゴム、錫などの主要産品が落ちてしまうので60%というカバレッジになってしまう。

いま、この点について1960年と1961年を例にとって、両書から SITC 1 桁別に対照表を作って割合を計算してみると第1表のとおりである。

第1表 バンコク港からの輸出入額の全タイ貿易額に占める比率(%)

SITC 1 桁	1960年		1961年	
	輸入	輸出	輸入	輸出
0. 食 糧	79.5	96.9	85.9	97.5
1. 飲料およびタバコ	98.3	95.1	99.6	89.1
2. 食用に適さない原材料 (鉱物燃料を除く)	92.2	34.4	94.8	40.3
3. 鉱物性燃料・潤滑油および関連品	91.5	77.1	192.8	74.1
4. 動物性および植物性の油脂	98.2	96.8	98.3	99.5
5. 化 学 品	97.8	84.6	98.2	83.3
6. 原 料 別 製 品	96.9	81.4	97.7	84.1
7. 機 械 類 お よ び 運 搬 用 機 器	96.7	83.0	97.3	88.4
8. 雑 貨	93.9	76.5	96.7	80.3
9. 特 殊 取 扱 品	93.5	73.7	90.1	69.4
合 計	94.6	64.8	96.0	72.2

(出所) 全タイの貿易額は *Annual Statement* 1960, 1961より、バンコク港の貿易額は *Monthly Report*, Dec. 1960, 1961より (exports は domestic exports + re-exports) 抜き出し比率の計算をした。

これからもわかるように、輸入では、食料品を除いて他はすべて90%以上をカバーしているのに対し、輸出では、原材料、鉱物性燃料、潤滑油およびその関連製品 (Section 2, 3) はとくにカバレッジが低い。これはバンコク港以外からの輸出に1次産品(ゴム、錫など)が多いことを物語っている。

月報の数字を利用するときには、以上のことから念頭においておく必要がある。

(注1) 宮本正『アジアの貿易統計, 現地調査報告』(未刊)による。

III 定義および除外品目

タイの貿易統計は一般貿易方式 (General trade system) によっている。つまり保税地域を通過する貨物のうち、直接通過貿易と積み換え貿易を除くすべての貨物の動きをとらえる方式を採用している。しかもタイの場合は、この直接通過貿易も外数として別掲されており、さらに一般貿易の中での除外品目も数が少ないので、総体としては、統計の包括する範囲はきわめて広いものとなっている。

これらの広範な貨物の動きを、輸入、輸出、再輸出、直接通過という四つのカテゴリーに分けて統計が作成されているわけであるが、これらのカテゴリーの定義を年報のまえがきによってみると、つぎのようになっている。

「輸入」とは通関手続きを終了してタイ国内にはいったすべての商品の記録であり、「輸出」とは、タイ国産品あるいはいったん輸入され国内で加工された商品が国外に出るのを記録したものである。さらに「再輸出」とはいったん輸入されたものがふたたび同じ状態で輸出されるものをいう。この場合、「同じ状態」とは、その商品が単なる仕分け、消掃、再包装あるいは調合以上には手を加えられていない状態をいうことになっている。また、「直接通過」とは、単に他の契約国に運送するという目的のみで保税地域にはいったものの記録である。

このような定義は、一般貿易方式を採用している国の場合とほぼ同じものである。もちろん、ここで特別の規定のないかぎり、政府貿易、国防物資、援助物資の動きも含まれることは当然である。

除外品目についての規定は、

- (1) 旅行者の個人用携行荷物
- (2) 積み換え荷物

(3) 税関を通る小荷物以外の郵便小包の3種類だけとなっている。これを貿易統計の一般原則でいわれる除外品目と比較してみると、非常に少ない除外品目数であることがわかる。一般に除外品目とされている通貨や金などはもちろんタイの貿易統計には包含されている。このように貿易統計のカバレッジの大きいことがタイの貿易統計の一つの特徴である。

このように包括範囲の広い統計を国際比較などのための統計にそのまま re-compile することには問題があるので、国連の統計書の場合などは SITC 以外の品目を削除して調整を施したうえで re-compile している。

いま、国連の『貿易統計年鑑』の数字と原資料

とを比較してみると第2表のとおりであるが、さらにこれを1961年について SITC の大分類(1桁分類)別にみると第3表のとおりである。『国連貿易統計年鑑』の数字とタイの原本の差については第3表の注を参照していただきたい。

第2表 総貿易額の比較 (1956~61年)

年	原本(パーツ)		国連(1,000パーツ)	
	輸入	輸出	輸入	輸出
1956	7,655,127,171	6,923,196,576	7,562	6,923
1957	8,536,971,474	7,539,540,739	8,431	7,540
1958	8,237,042,790	6,446,647,156	8,214	6,192
1959	8,988,336,036	7,560,377,412	8,984	7,275
1960	9,622,061,142	8,614,311,182	9,559	8,422
1961	10,287,271,430	9,996,983,324	10,160	9,716

(出所) 原本: Annual Statement 1961より、国連: 『貿易統計年鑑』1961年版より。

第3表 SITC 1桁別比較

SITC 1桁	輸入		輸出		
	原本(パーツ)	国連(1,000パーツ)	原本(パーツ)		国連(1,000パーツ)
			再輸出を含む	再輸出を含まない	
0	764,776,945	764,777	5,206,046,877	5,204,481,150	5,204,481
1	197,255,725	197,256	16,412,893	16,258,804	16,259
2	206,681,089	206,681	4,253,477,915	4,245,018,113	4,245,018
3	1,011,515,516	1,011,516	109,024,317	17,383	17
4	14,302,367	14,302	11,454,540	11,374,789	11,375
5	1,044,841,066	1,044,841	9,809,620	7,510,420	7,510
6	3,756,789,074	3,756,789	156,847,513	141,152,601	141,153
7	2,455,410,277	2,455,410	120,690,103	685,698	686
8	500,061,909	500,062	29,145,314	21,843,571	21,844
9	335,637,462	208,523	84,074,232	68,337,515	68,329
計	10,287,271,430	10,160,156	9,996,983,324	9,716,680,044	9,716,671

(注) Section 9の数字の相違は除外品目の相違によるものである。輸出では国連統計では、その「まえがき」によると「特別貿易に近からしめるため」に調整を加えている。つまり全輸出から再輸出を減じたものが輸出となっている。ところが輸入については、これに相当する調整が不可能であるため、原本のままの一般輸入の数字となっている。この点、国連の数字から物量バランスをみようとするときは特に注意する必要がある。

(出所) 第2表に同じ。

IV 数量・金額評価

1. 数量評価

数量は純量 (net) で示されることになっている。その場合の数量単位は、Thailand Trade Nomenclature に示されているものが使用される。これ

は主にメートル法によるものであるが、若干のものはヤード・ポンド法であり、また中には特殊なものもあるので注意を要する。

採用されている単位は、その種類別に2桁のコードが付されており、統計表の中ではこのコードで単位が示されている。

年報の「まえがき」の部分の Unit Code の一覧表をみると、まず最初に Weight (0), Volume (1), Length (2), Number measure (3), Unit measure (4, 5), Energy (7) の五つのタイプに大きく分けて、さらにその中を細分して個々の単位を示している。

0～3までのところはほとんどが一般的な単位であるけれども、unit measure 中の In denomination (44), energy 中の unit (70) は、他の諸国では用いられていないものである。

In denomination という単位は、商品別の銻貨、紙幣の項で採用されており、銻貨や紙幣の名目額を示すものと思われる。一般にはこの銻貨や紙幣は除外品目で、それほどこの数量単位は問題にならないだろう。

さらに energy の単位である unit については、何の説明もなく詳しい内容は現在のところ明らかでない。

2. 金額評価

金額評価は、輸入では陸上げ費用および従価義務税を含んだ c. i. f. で、輸出では輸出税を含んだ f. o. b. で示されることになっている。

金額単位は、パーツ (Baht) で示されている。申告書が外貨建ての場合は、これをパーツに換算して集計している。

この換算率は、通関の日に中央銀行から発表されるパーツの売買両方の実効レート of the average value を用いて各申告書ごとに行なわれる。これを月間あるいは年間で集計する場合には、税関部で作成した月間あるいは年間の平均実効レートで補正することになっている。

しかしながら「1947～55年は複数為替レート方式が実施された」(註2) ので、パーツ表示の統計のドルへの換算には注意を要する。ここに1951年以降の対米ドル・レートを示すと第4表のとおりである。

第4表 換算率 (単位: 米ドル当たりパーツ)

年	輸 入	輸 出
1951	12.50	21.50
52	12.50	18.65
53	12.50	18.38
54	12.50	21.36
55	12.50	21.59
56	20.70	20.70
57	20.68	20.68
58	20.90	20.90
59	21.08	21.08
60		
61	20.98	20.98

(出所) IMF, *IFS* および宮本正『現調報告』による。

(注2) 国連、『貿易統計年鑑』の説明による。

V 統計期間および統計地域

1. 統計期間

貿易統計の原資料である申告書には、通関完了の時点が示されているので、それによって毎月または暦年の集計が行なわれている。ただし、月ごとの数字は、前に述べたようにバンコク港のみのものである。

2. 統計地域

自国はいうまでもなくタイ国領土である。相手国の定義は、年報の「まえがき」によるとつぎのようになっている。

輸入では、以前の原産国のかわりに購買国が採用されている。この購買国とは、商品の委託国であるとそうでないを問わず、タイが直接商品を購入した国のことを意味する。1955年までは原産国主義を採用していたが、それ以降上記のように変更された。

また、輸出では直接の売り渡し国を相手国とすることになっており、それが委託国であるとそうでないを問わない。

このような定義に基づいて、貿易の相手国が決定されるのであるが、つぎにその相手国の分類についてみてみよう。

相手国分類は、数量単位の場合と同様に2段階

の分類がなされ、それに3桁のコードが付けられている。第1段階では世界を大きく八つに分け、さらにその中を全部で175カ国に分類している(第5表参照)。

第5表 相手国分類

コード	地 域 名				分類国数
1	ア		ジ	ア	46
2	ヨ	ー	ロ	ッ	40
3	南	ア	メ	リ	14
4	北	ア	メ	リ	4
5	中部アメリカおよび西インド諸島				22
6	ア	フ	リ	カ	32
7	オ	セ	ア	ニ	16
8	そ		の	他	1
計					175

このような地域分類でとくに気づく点は、(1) U. S. S. R. をアジアとヨーロッパに分けていること、(2) Taiwan と People's Republic of China, Vietnam (北ヴェトナム) と Vietnam (南ヴェトナム), North Korea と South Korea に明確に分けていること、(3) Thailand がはいつていることなどである。タイが相手国分類に含まれていることは無意味と思われるけれども、ここでは全世界の分類表というほどの意味で、はいつているものと推察される。

VI 商品分類

商品分類についての説明は、年報の「まえがき」に「商品分類は SITC に基づいた *Thailand Trade Nomenclature* (fifth edition revised 1960) による」とあるだけで、他に何の説明もない。しかしながら、細部まで統計書を検討してみた結果以下のような問題があることがわかった。

分類体系自体は、旧 SITC 5桁にさらに2桁追加した7桁分類の簡明な形式のわかりやすいものであるけれども、実際の統計の利用にあたってはつぎの二つの点に問題がある。

その第1は、さきにも述べたようにタイの貿易

統計の包括範囲が広く、そのために SITC だけではカバーできない商品の取引がはいつている。すなわち SITC では除外品目とされているものを含んでいるので、SITC に変更を加えたり、あるいは新たに別のコードを追加したりしていることである。

1961年の年報を例にとってみると、SITC を変更しているものとして、輸入の93102がある。SITC では93102は special transaction であるが、これをタイでは special transaction, n. e. s. (その他の特殊取引) として、商品分類の不明のものをこの item に入れることにしている。

追加しているものの例としては、輸入では、

9999701 金貨、金地金

9999702 金箔

9999914 紙幣および卑金属鋳貨

輸出では、

9999999 紙幣および卑金属鋳貨

再輸出では、

9999901 紙幣および卑金属鋳貨

などがある。

これらは統計の国際比較に際しては、前もって削除しておくべきものである。第3表の数字のぐいちがいつもこれによるものであることは明らかである。

第2の問題点は、一番細分された7桁分類(ディテール)の多くが毎年変更を加えられていることである。5桁(item)まではSITCと同じであるので問題ないが、その下の細分の仕方が年ごとに変わっているため、商品別(ディテール別)の時系列を作成することは大きく制約されざるをえない。

現在のところ、7桁段階で時系列を作成することは1955~60年の間については、ほとんど意味がないという結果が出ている(註3)。

しかもディテールの分類の仕方が単に変更されるだけなら、5桁(item)別の時系列には影響しないので5桁別の数量・金額をうることはできるは

第 6 表 品目別時系列表の例 (84104: Underwear and

Name of Commodity	1955			1956				
	COU DE	QUAN TITY	VALUE	COU DE	QUAN TITY	VALUE		
Shirt, silk	01	45	7,376			54,949		
Shirt, rayon	03	"	116,559			1,164,867		
Shirt, cotton	05	"	3,159,868			38,668,702		
Shirt other textile materials	06	"	1,008			55,310		
Singlet, cotton	07	"	2,873,402			16,909,658		
Cotton Vest	08	"	1,651,958			9,182,382		
Underwear and nightwear, other than knitted or crocheted of all other textile materials	99	"	773,204			5,637,554		
Underwear and nightwear, excluding crocheted or knit, of silk, pure or mixed n. e. s.				01	34	1,397	42,513	
Underwear and nightwear, excluding crocheted or knit, of synthetic fibre, pure or mixed n. c. s.				02	"	23,971	447,995	
Underwear and nightwear, excluding crocheted or knit, of rayon, pure or mixed n. e. s.				03	"	123,490	1,241,797	
Underwear and nightwear, excluding crocheted or knit, of wool or other fine animal hair, pure or mixed n. e. s.				04	"	816	21,215	
Underwear and nightwear, excluding crocheted or knit, of cotton, pure or mixed n. e. s.				05	"	465,411	16,959,447	
Underwear and nightwear, excluding crocheted or knit, of other textile fibre r. e. s. pure or mixed. n. e. s.				06	"	9,901	121,766	
Shirt, of all textile materials				07	"	641,737	16,695,769	
Underweares and nightweares, excluding knit or crocheted, synthetic fibre excenclng artificial or mixed silk								
Cotton shirts								
Shirts of other textile materials								
Men's and boy's shirts, of cotton								
Men's and boy's underweares and nightweares, other, of cotton								
Men's and boy's shirts of silk, pure or mixed								
Men's and boy's shirts of man-made fibres, pure or mixed								
Men's and boy's shirts of wool, pure or mixed								
Men's and boy's shirts of other textile fibres or mixed								
Men's and boy's underweares and nightweares, other, of silk, pure or mixed								
Men's and boy's underweares and nightweares, other of man made fibres, pure or mixed								
Men's and boy's underweares and nightweares, other of wool, pure or mixed								
Men's and boy's underweares and nightweares, other, of other textile fibres, pure or mixed								
Infant's under germents								
Women's and girl's shirts and slips, of cotton								
Women's and girl's underweares and nightweares, other, of cotton								
Women's and girl's shirts and slips, of silk, pure or mixed								
Women's and girl's shirts and slips, of man-made fibres, pure or mixed								
Women's and girl's shirts and slips, of woll, pure or mixed								
Women's and girl's shirts and slips, of other textile fibres, pure or mixed								
Women's and girl's underweares and nightweares, other, of silk, pure or mixed								
Women's and girl's underweares and nightweares, other, of man-made fibres, pure or mixed								
Women's and girl's underweares and nightweares, other, of other textile fibres, pure or mixed								
841-04 Underwear and nightwear, other than Knitted			8,583,375			71,673,442	966,723	20,230,502

(注) 本表の表例は SITC item 84104 の細分項目を示す。表頭の CODE は 84104 に続く下 2 桁コードを示す。

nightwear, Other than knitted, Import)

1957				1958				1959				1960			
CO	UN	QUAN	VALUE	CO	UN	QUAN	VALUE	CO	UN	QUAN	VALUE	CO	UN	QUAN	VALUE
DE	IT	TITY		DE	IT	TITY		DE	IT	TITY		DE	IT	TITY	
01	50	84	3,164	01	50	264	11,578								
03	50	113,258	1,075,935	03	50	67,499	792,133	03	50	81,469	1,067,479				
04	50	24	108	04	50	8	643	05	50	1,256	23,620				
05	50	178,375	1,946,295	05	50	246,012	2,678,106	06	50	245,968	2,642,413				
06	50	1,826	51,699	06	50	1,400	14,015								
02	50	33,622	653,853	02	50	49,584	911,624	02	50	64,988	981,043				
07	50	343,278	10,327,869	07	50	168,669	5,232,024	07	50	154,349	4,884,417				
08	50	51,829	1,751,059	08	50	21,837	791,181	08	50	20,544	1,010,800				
												11	50	63,706	2,657,071
												12	50	244,997	2,521,555
												13	50	376	25,797
												14	50	30,111	1,429,660
												15	50	9	487
												16	50	1,299	52,211
												17	50	2,407	10,766
												18	50	11,927	230,635
												19	50	60	1,201
												10	50	84	4,011
												11	50	5,429	28,406
												12	50	3,289	57,763
												13	50	9,170	96,025
												14	50	462	7,386
												15	50	39,595	657,276
												16	50	8	610
												17	50	471	22,883
												18	50	132	3,089
												19	50	72,630	898,647
												21	50	1,076	17,626
		722,296	15,809,982			555,273	10,430,661							487,238	8,723,105

ずだけれども、実際には7桁分類の変更は数量単位の変更をも伴っている場合があって、5桁別では数量を得ることができなくなってしまう。数量単位が同じディメンジョンのものなら同一単位への換算も可能だが、ちがったディメンジョンの場合（たとえば長さの単位と重さの単位）には、よほど商品の規格が明らかでないかぎり換算はできない。

このような制約のため、厳密には輸出入の単価指数・数量指数の作成は、多くの品目について不可能になっている。

いま SITC 5桁品目ごとに1枚の時系列表を作成し、表頭に年次を表側に7桁の品目分類を記入して、各年次の数字を記入してみると、数字が階段状に並んでしまう。このような例は他の国にも若干はあるが、タイの場合ほど決定的ではない。第6表にその典型的な例(84104)を示しておく。

1955~60年間について、このような例は Section 0 だけについてみても、輸入では88品目中30品目、輸出では70品目中21品目の多きに達している。

タイの貿易統計は、全般的にはよく整備されているけれども、このような細部での欠陥があって品目別の時系列分析は大きく制約されざるをえない。

(注3) 当研究所統計部で1955~60年の時系列表作成作業が行なわれて、このような結果が明らかとなった。

ま と め

以上、タイ貿易統計の問題点を中心に説明を加えたが、その特徴と利用上の注意をまとめてみると、つぎのようになるだろう。

まず、その特徴としては、

- (1) 計上する commodity flow の範囲が広いこと、
 - (2) 直接通過貿易が別掲されていること、
 - (3) 細部での問題点を別にすれば、1930年代までさかのぼってデータを得ることができること、
- などがあげられる。

つぎに、利用上注意を要する点としては、

- (1) 全タイのものとバンコク港のみのものの2通りの実績の発表があること、
 - (2) 米、ゴムなどの主要輸出品については、南タイにおけるマラヤとの交易や加工貿易などの関係で、月間では推定額をあげておき、年間で輸出検査量や為替レートをもとにして補正する方法がとられていること、
 - (3) 商品分類のディテールの変更がはなはだしく、商品別時系列分析には大きな制約があること
- などがあげられる。

(統計課 嵯峨座晴夫)

インドネシア貿易統計 (1951~1961年)

— 研究参考資料 第70集 —

アジア経済研究所編

本書は、インドネシアの品目別輸出入の数量・金額を、1951年から1961年までの11年間についてとりまとめたものである。

品目名はインドネシア語・日本語の対訳となっており、インドネシア品目コードのSITC 5桁への対応も同時に示されている。